

(2) 補助金見直しの基本視点に基づく評価

(※具体的な根拠指標には、設問に対する評価根拠となる、成果等を示す数値的な指標を記載すること)

公益性	補助事業が、客観的に見て、より広く市民等に利益をもたらす、または還元されている。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		広く社会に利益をもたらす	子どもの成長と健全な育成及びその支援、また地域社会への奉仕等を目的としたものであり、広く市民等に利益をもたらすものである。
公益性	補助事業の目的が、時代や社会情勢に合っている。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		ほとんど合っている	地域における青少年健全育成の必要性は高まっている。
必要性	補助金を交付する形で、市が関与する妥当性がある。	評価	「ある」→妥当性について記入。 「ない」→妥当性がないにも関わらず補助する理由を記入。
		ある	青少年の健全育成を推進するうえでは必要である。
	補助金がない場合、団体等は自主財源で事業を行うことができない。	評価	「できる」→自主財源で事業実施可能にも関わらず補助する理由を記入。 「できない」→補助金がなければ事業を実施できない理由・具体的根拠を記入
		できない	子どもの数が減少している地域もあるため、補助金がない場合、活動を縮小または子ども会を廃止せざるを得ない団体が多いと思われる。
	市民ニーズが高いものである。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		高い	子どもの数が減少している地域もあるが、地域における健全育成活動の必要性は高まっている。
	市民ニーズに即している。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標
		即している	子どもの数が減少している地域もあるが、地域における健全育成活動の必要性は高まっており、それに即している。
補助金の意義について、的確に説明できる。	評価	「できる」→誰に対しどのような効果があるか等について記入。 「できない」→説明できない理由について記入。	
	できる	地域における青少年の健全育成に資するものである。	
補助期限（終期）を設定している。	評価	「設定済」→設定年度とその根拠を記入。 「未設定」→設定しない理由と今後の見通しを記入。	
	設定済	会計年度での確認を行うため、補助期限は年度末に設定している。	
補助金申請に係る積算根拠が明確である。	評価	「はい」→積算根拠を何で確認しているかを記入。 「いいえ」→積算根拠が不明確である理由と今後の見通しを記入。	
	はい	今までの事業にかかる実績報告書や収支決算書を確認している。	

施策との整合性	当該補助金は、市の政策目的や施策と整合している。	評価	「している」→どのような点で整合しているのか記入。 「していない」→整合していないにも関わらず補助する理由を記入。	
		している	市の健全育成の位置づけである。	
施策との整合性	補助事業が本市の特性を生かした取り組みである。	評価	「はい」→どのような点で特性を生かしているのか記入。	
		はい	地域での青少年健全育成に対する意識が高揚する。	
公平性	事業を実施できる団体が他にない。（複数存在する場合、当該補助金がその事業者にだけ交付される合理的な理由がある。）	評価	「はい」を選んだ理由	
		いいえ	「いいえ」の場合、補助金がその事業者にだけ交付される合理的理由を記入。 青少年関係団体はほかにも存在するが、各地域に密着した事業を実施し、地域の結びつきを強められる団体は各子ども会しかない。	
	評価	「設定済」→補助率とその根拠を記入。 「未設定」→設定しない理由と今後の見通しを記入。		
	設定済	最低補助額は16,000円とし、会員数が50人を超える子ども会は、50人を超えた人数1人につき160円以内の額を加算（当初予算の範囲により変動）。ただし、加算する場合は当該子ども会活動費総額の20パーセントが限度額。		
効率性	補助目的に見合った成果や、施策実現に向けた効果がある。	効果の測定方法・具体的な根拠指標		
		青少年健全育成に向けた事業の実施		
	評価	評価理由		
	十分効果をあげている	地域の青少年健全育成への寄与が認められる。		
	手法として、委託等の手法よりも、補助金を交付することがより合理的である。	評価	評価の理由・具体的な根拠指標	
	はい	団体の自主性と自立を確保し、弾力的な事業運営を可能にするため。		
国や県、本市において同様の補助事業がない。（※国県要綱に対し、上乘せ・横出しする補助事業は除く）	評価	「ある」の場合、同様な補助事業と両方存続させる理由を記入。		
	ない			
補助対象経費の明確化	補助金対象内外経費が明らかになっているか。	評価	「はい」→何で確認をしているか記入。 「いいえ」→明確にしていけない理由を記入。	
		はい	収支決算書で確認をしている。	
	補助対象外経費を補助対象としていない。（対象としている場合は、明確な根拠を持っている。）	評価	「対象としている」の場合、費目及びその根拠規定と対象となる考え方を記入。（※費目とは、飲食費や慶弔費など）	
		対象としていない		

※以下の項目は、団体補助金のみ記述。

団体補助金	団体の設置および活動目的が、補助事業からみて整合しているか。また、団体としての活動実態があるか。	評価	評価の理由
		はい	団体の設置・活動目的が補助事業に整合しており、活動実態も確認している。
	補助事業の内容と成果について、交付団体においても対外的に情報公開を実施しているか。	評価	「はい」→情報公開の手法等について具体的に記入。 「いいえ」→実施できない理由と今後の見通しを記入。
		はい	各団体において、補助事業の内容等を総会や会報等で公開している。
	団体内で、補助金の使途や決算などの監査機能が有効に機能していて、透明性等をもって運営されているか。	評価	「はい」→どのような監査手法で実施しているか記入。 「いいえ」→機能していない理由と今後の見通しを記入。
		はい	各団体において、決算書および内訳明細書を監査するとともに総会において審議・議決を行っている。
補助金交付団体の自立性を促すことなどから、運営補助から事業補助へ移行を図っているか。	評価	「運営補助」の場合、事業補助に移行できない理由と今後の見通しを記入。 ※混合補助で実施している場合は、割合が大きい方を選択してください。	
	事業補助		
市職員が補助金交付団体の事務を行っているか。（行っている場合は合理的な理由があるか。）	評価	「行っている」の場合、合理的な理由を記入。	
	行っていない		
繰越金	交付団体の補助事業会計において、補助金額以上の繰越金を計上している。 (※複数団体ある場合は、各団体を一覧化したものを別紙にて提出のこと)	評価	具体的な根拠指標
		はい	直近決算額における補助金額 567,496 円 繰越金額 3,717,505 円 { うち補助事業会計分 円 うち団体独自会計分 3,717,505 円
			繰越金額が生じた具体的な原因について記入。
			子ども会は、事業費総額に対する補助金額の割合が低い団体が多くを占めているため、ほとんどの団体が繰越金の方が多くなっている。
上記設問において、「はい」の場合、補助金の減額ないし、休止などの必要な対策を考えている。	評価	「はい」→具体的な対応策について記入。 「いいえ」→対応できない理由について記入。	
	いいえ	繰越金が多いとはいえ、子どもの数が減少しているため、補助金の減額は子ども会の存続に影響を与えられる。	

(3) 国県要綱・近隣市補助金との比較を通じた評価

補助金を交付していない近隣市もあるが、本市においては、子ども会の活動は青少年の健全育成に大きく寄与しているため、今後も市全体の青少年健全育成推進のために支援する必要がある。

(4) 補助金の課題

事業内容を検証しながら、より効果的な事業が実施できるよう、市も関わりを持つ必要がある。

(5) 所属長の総合評価

地域の子どもの健全育成活動に携わる子ども会は、地域教育の核となって活動していることから、地域での活動も活発になり、そのことにより地域住民と一体となって子どもの育ちを支援するしくみができてきていると思われる。今後も、青少年の健全育成を醸成する環境づくりにつながるその活動を市全体の健全育成を推進するために支援していきたい。

(6) 補助金の今後の方向性

<input checked="" type="checkbox"/> 現行のまま継続
<input type="checkbox"/> 見直しをしたうえで継続
<input type="checkbox"/> 廃止
<input type="checkbox"/> その他

その他の内容

現行継続の理由	地域に密着した青少年健全育成の推進団体であり、その活動を支援することで地域の健全育成活動を促進する必要があるため。
---------	---

見直しの時期	
見直しの内容	

廃止の時期	
廃止の理由	